



VALUENEX株式会社
東証グロース：証券コード4422

2026年7月期第1四半期 決算補足説明資料.

2025年12月11日

VALUENEX

項目

1

2026年7月期第1四半期業績報告

2

2026年 7 月期連結業績予想

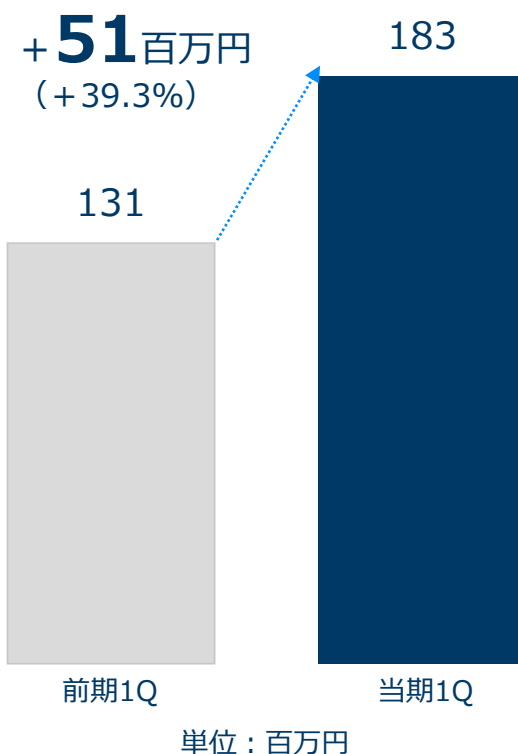
3

事業概要

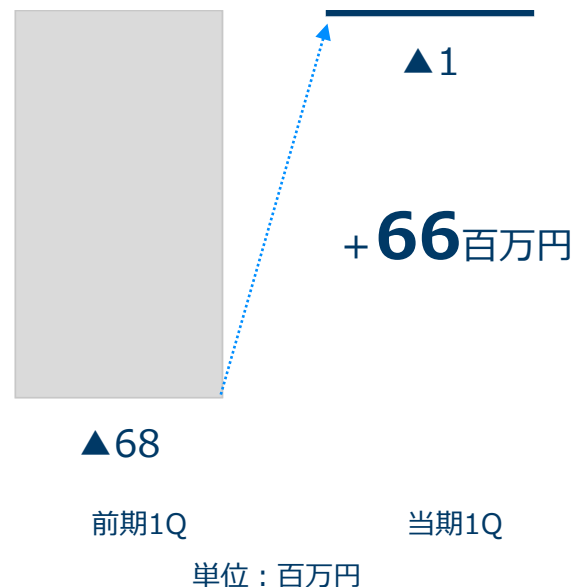
26年7月期 第1四半期 決算ハイライト

売上高は前年同期比+39.3%と伸長し、1Qとして上場後、**過去最高**。
増収効果とコスト削減により、営業損益は**+66百万円の大幅改善**、赤字は△1百万円に縮小。

売上高の推移



営業利益の推移



収益構造と足元の状況

1. 構造的な下期偏重型モデル

当社売上は顧客予算等の関係で下期に偏重する傾向にあります。
(上期39.9%：下期60.1%※)

2. 足元の状況：損益分岐点の水準へ

例年、先行投資により損失計上となる1Qにおいて、今期は損益分岐点近傍で着地。

3. 今後の見通し

通期業績予想は現時点では未公表ですが、第1四半期として**極めて順調な滑り出し**となりました。

26年7月期 第1四半期 連結業績概要

売上高が1Qとして上場後過去最高（+39.3%）を更新、コスト削減も寄与し、
営業損益は前年同期比で+66百万円の大幅改善。経常利益以降は**黒字転換**。

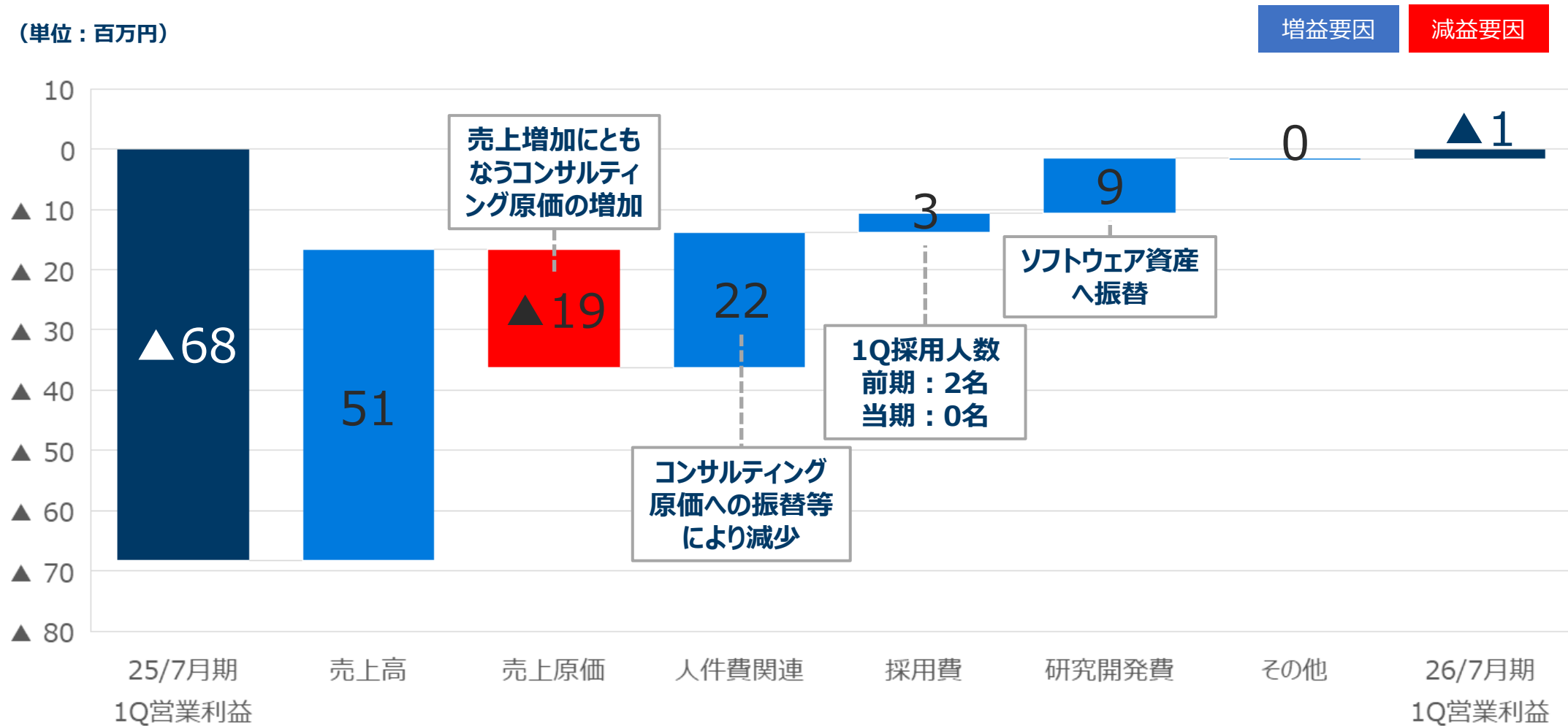
(単位：百万円)	25年 7月期 1Q 実績	26年 7月期 1Q 実績	YoY 増減	
売上高	131	183	+39.3%	◎ コンサルティングが好調
売上原価	28	47	+69.8%	○ コンサルティング売上増に伴う、遂行費の増加
売上総利益	103	135	+31.0%	○
売上総利益率	78.6%	73.9%	▲4.7pt	▲ コンサルティング売上増が要因
販管費	171	136	▲20.2%	○ コスト削減、売上原価への振替等
営業利益	▲68	▲1		◎ 大幅改善
営業利益率	▲52.0%	▲0.9%	+51.1pt	◎
経常利益	▲69	0.4		◎ 黒字転換
親会社株主に帰属する当期純利益	▲68	0.2		◎ 黒字転換

26年7月期 累計連結営業利益増減要因

主に売上が増加し、増益しました。

売上増加にともない人件費を中心に販管費から原価への振替が大きくなったため、原価が増加し販管費が減少しております。

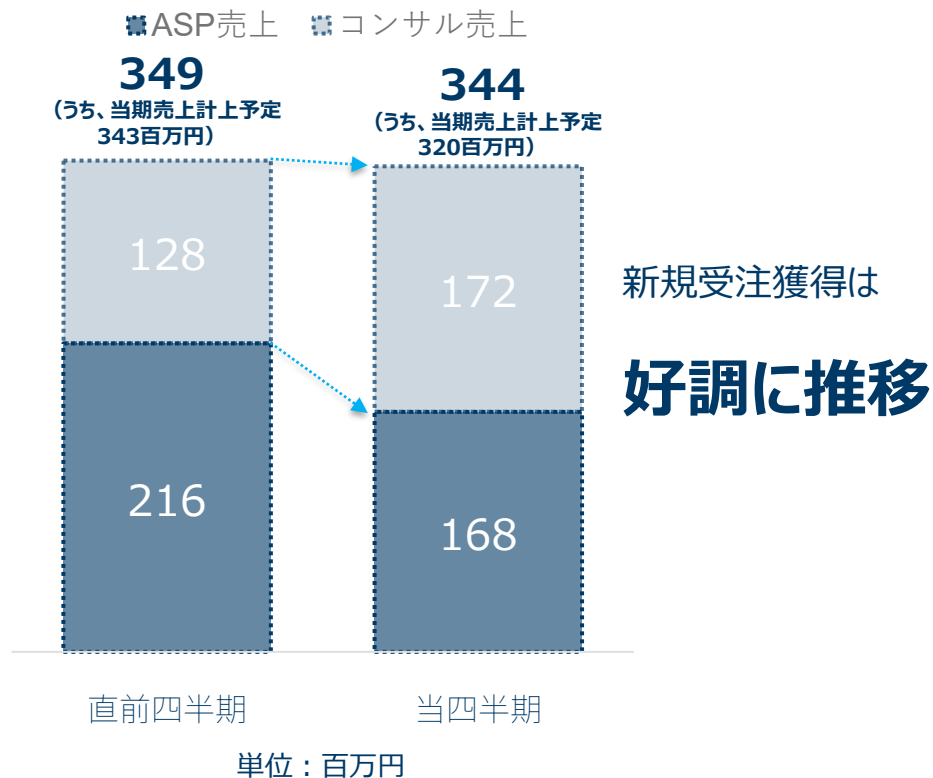
(単位：百万円)



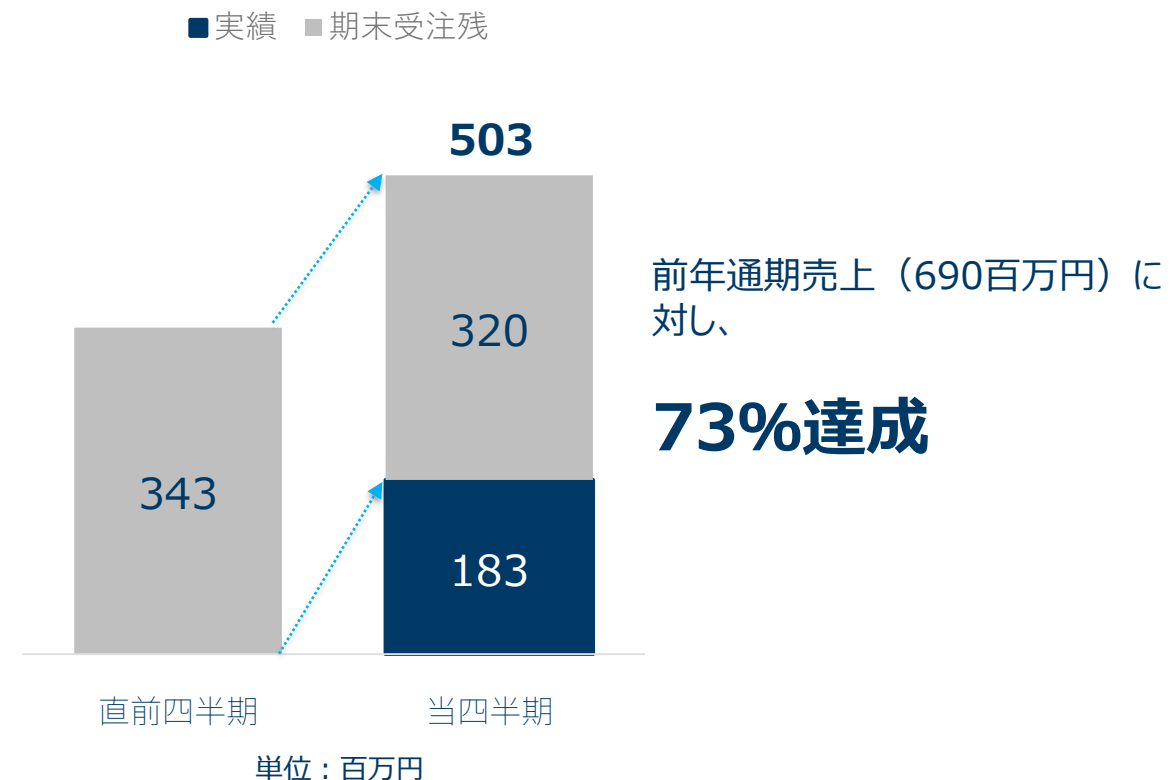
26年7月期 第1四半期 期末受注残と通期に向けた状況

1Q時点での実績+受注済みの売上が前年通期売上に対し73%と順調な滑り出しとなりました。

期末受注残の推移



実績※ + 期末受注残 (当期売上計上予定分)



※直前四半期は前期4Qとなるため、今期にかかる実績は0としております。

※受注残高は現時点での契約に基づきますが、顧客都合による期中の変更・解約等の可能性が完全にはありません。

※コンサルティングとASP売上以外に、データ販売やレポート販売等のその他売上もありますが、少額のため合計値にのみ合算しております。

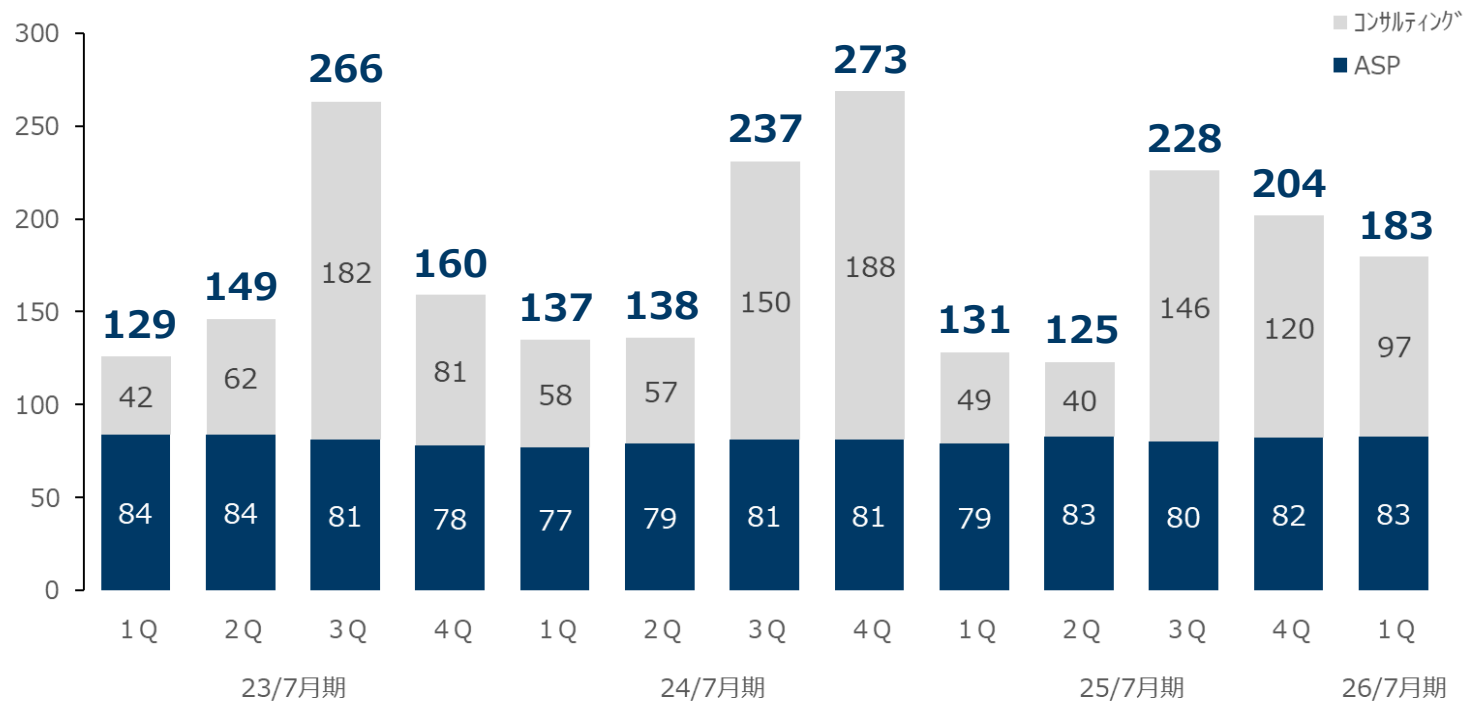
26年7月期 第1四半期 連結貸借対照表の状況

自己資本比率79.7%の極めて健全な財務基盤・無借金経営を維持しています。



連結売上高の推移（サービス別）

コンサルティング・ASP・売上合計すべてにおいて前年同期を上回りました。



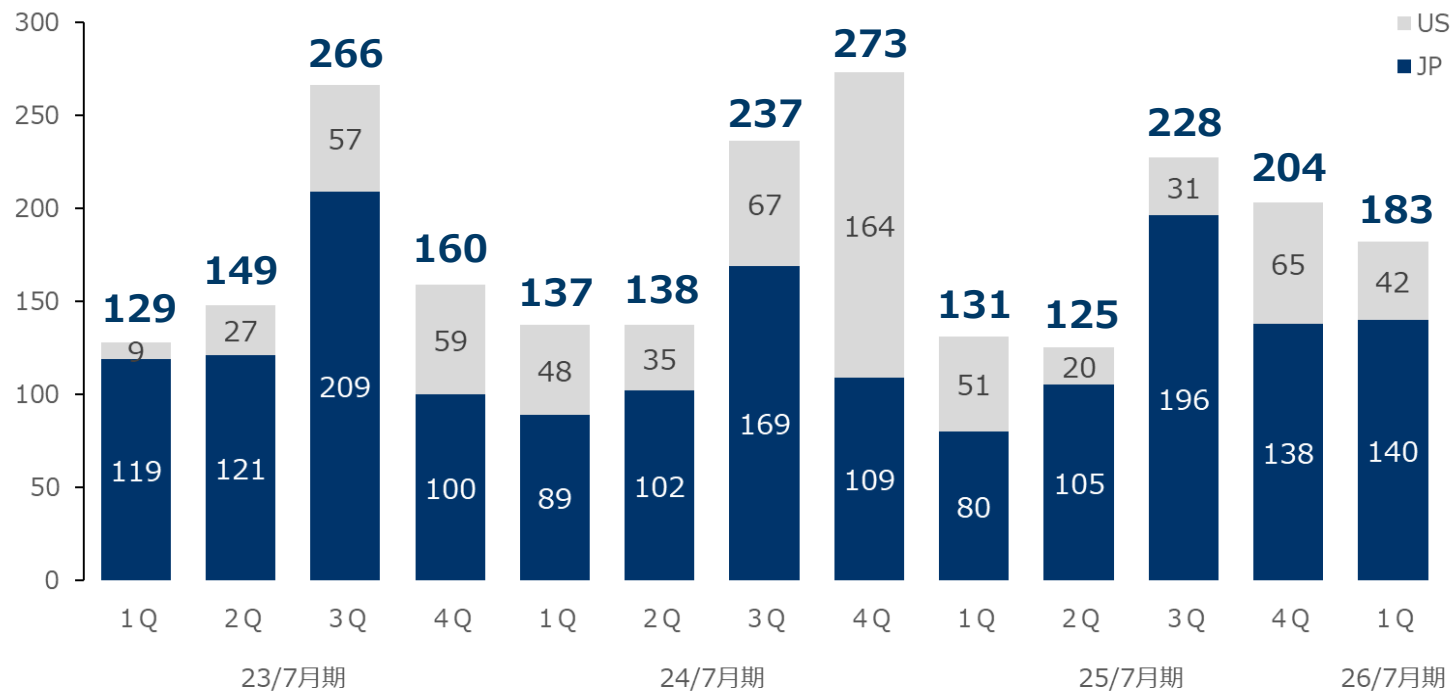
1Q	前年	実績	前年比
合計	131	183	+33.2%
コンサルティング	49	97	+64.9%
ASP	79	83	+7.1%

単位：百万円

※コンサルティングとASP売上以外に、データ販売やレポート販売等のその他売上もありますが、少額のため合計値にのみ合算しております。

連結売上高の推移（地域別）

USは前年同期を下回りましたが、JP・連結では上回りました。



1Q	前年	実績	前年比
連結	131	183	+33.2%
US	51	42	▲11.2%
JP	80	140	+57.1%

単位：百万円

VALUENEX, Inc. (米国) 第1四半期主な活動状況

営業活動

- 日系大手のシリコンバレーでのイノベーション活動を支援する大型パッケージプランを遂行中です。
- サンフランシスコ駐在ブラジル領事館からプロジェクトを受注しました。
- スタンフォード大学・UCバークレー校からのサマーインターンを活用した複数のグローバル・インターンシップ・プロジェクト（お客様の課題解決（特にAI関連）に関わるアイデア出しからプロトタイプ作成までを支援するサービス）を無事完了、複数の継続案件商談に繋がっています。

マーケティング

- 9月にワシントンDCで開かれた防衛テック関連のカンファレンスであるAir, Space, and Cyber Conferenceに参加しました。
- 9月にFortune 100企業が集まるカンファレンスにて当社の紹介をしました。
- 12月開催の量子コンピュータのビジネスカンファレンスであるQ2B Silicon Valley 2025にスポンサーとして参加のため、準備を進めています。

開発

- LLM(Large Language Model)を活用した新しいサービスを開発中です。

採用

- 今後のグローバル・インターンシップ・プロジェクト（お客様の課題解決（特にAI関連）に関わるアイデア出しからプロトタイプ作成までを支援するサービス）に向けた採用活動中です。

第1四半期の取り組み・記事掲載

■ CEATEC2025にて新サービス『RTI』（Radar Tech Intelligence）を発表

2025年10月13日～16日に幕張メッセで行われたCEATEC2025に出展しました。

当社ブースにも多くの方にお越し頂き、新製品『RTI』（Radar Tech Intelligence）を発表。

また営業部の新井による講演 『技術の社会実装とイノベーション創出に向けたビッグデータ情報活用』を行い、技術を社会実装する上で情報を活用していく意義や、VALUENEX Radarを使用した事例についてお話しました。

<https://www.valuenex.com/jp/news-list/20251029/ceatec2025>

■ ICMG Groupとの持続的な企業価値創造の実現に向けた共催イベント「日本企業よ、潜在パワーを世界へ解き放て！」を開催

2025年8月7日（木）、VALUENEXは企業の知的資本経営の実現を支援するICMG Groupと合同で、共催イベントを開催しました。

本イベントは、企業に潜在する事業機会を探索しつつ、企業の価値の源泉である知的資本を顕在化していく流れを体感できるワークショップとなります。当日は、日本を代表する製造業およびインフラ企業5社より、イノベーション部門、研究開発部門、知財関連部門に所属の方々に参加いただきました。

<https://www.valuenex.com/jp/news-list/2025/icmg>

■ 「2025 知財・情報フェア&コンファレンス」に出展

2025年9月10日～12日に東京ビッグサイトで行われた「2025 知財・情報フェア&コンファレンス」に出展しました。

当社ブースへは400人以上の方にお越し頂き、大盛況でした。

<https://www.valuenex.com/jp/news-list/20251006/pifc>

第1四半期(8～10月) メディア掲載・セミナー登壇一覧

メディア 掲載	2025年 8月12日 日経クロステック様の記事に当社の解析データが掲載	https://www.valuenex.com/jp/news-list/20250812-xtech-nikkei
	2025年 9月 8日 明治ホールディングス株式会社様の「統合報告書 2025」に弊社ツールで作成した俯瞰図が掲載	https://www.valuenex.com/jp/news-list/meiji-integrated-report-2025
	2025年10月23日 旭化成株式会社様の「旭化成レポート2025」に弊社ツールで作成した俯瞰図が掲載	https://www.valuenex.com/jp/news-list/asahikasei-report-2025
セミナー 登壇	2025年 8月25日 【開催報告】ICMG Groupとの持続的な企業価値創造の実現に向けた共催イベント「日本企業よ、潜在パワーを世界へ解き放て！」	https://www.valuenex.com/jp/news-list/2025/icmg
	2025年 9月 9日 <2025/9/9> 弊社CEO中村が「生成AI時代のデータ予測 - 未来を読み解くAI活用の最前線」に登壇	https://www.valuenex.com/jp/news-list/20250909svif
	2025年10月 6日 【開催報告】「2025 知財・情報フェア&コンファレンス」に出展しました	https://www.valuenex.com/jp/news-list/20251006/pifc
	2025年10月29日 【開催報告】CEATEC2025にて新サービス『RTI』（Radar Tech Intelligence）を発表	https://www.valuenex.com/jp/news-list/20251029/ceatec2025

開発の状況

1. Radar Tech Intelligence (RTI)※リリース
2. Radar QFD（開発現場で活用される品質表を自動生成するツール）※の改良
3. お客様ツール(VALUENEX Radarアプリ)の機能改良
4. VALUENEX Radarの改良

※ Radar Tech Intelligence (RTI)とは

あらゆる特許情報を解析し、業界ごとの技術トレンドを自動でレポート化する新サービスです。

特許×俯瞰解析×生成AIを組み合わせ、レポート1本で技術の全体像（構造・動向・主要プレイヤー・新興領域）を提示し、数クリックで経営・技術営業支援・R&D・投資判断・技術教育などを支援します。

※ Radar QFD とは

AIが顧客のニーズ（欲しいもの）と企業のシーズ（作れる技術）を自動で分析し、結びつけてくれる新製品開発ツールです。

このツールによって、どの技術を優先して開発すればヒット商品に繋がるかが客観的なスコアで示されるため、開発者は迷わず開発に集中できます。

結果として、企画・開発・経営の全員がデータに基づいた共通の目標を持てるようになり、会社全体として「市場が本当に求める製品」を迅速かつ効率的に生み出すことが可能になります。

項目

1

2026年7月期第1四半期業績報告

2

2026年 7 月期連結業績予想

3

事業概要

2026年7月期連結業績予想

トランプ関税や国際情勢等、当社グループの業績に与える影響が依然として不透明であることから、現時点で損益の合理的な予測が困難な状況となっております。

以上の状況から、次期（2026年7月期）の連結業績予想につきましては未定とさせていただき、今後の業績への影響を慎重に見極め、開示可能となった時点で速やかに公表いたします。

項目

1

2026年7月期第1四半期業績報告

2

2026年 7 月期連結業績予想

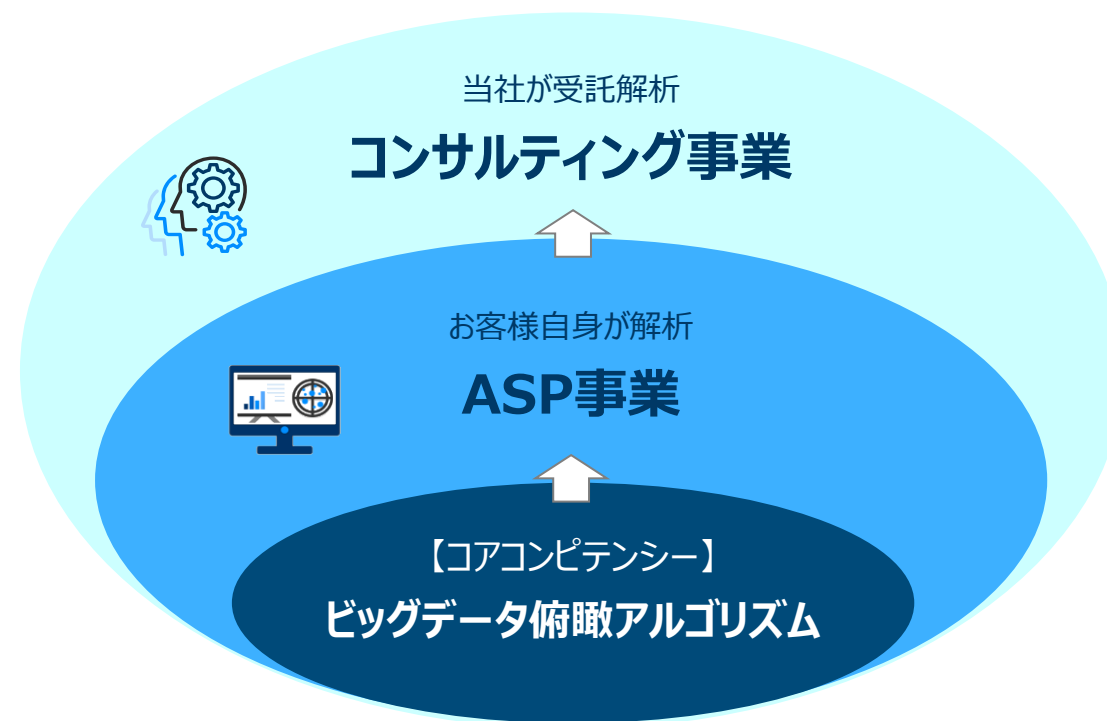
3

事業概要

当社のアルゴリズム事業

当社アルゴリズム事業は主に 2 つの販売形態から成り立っております。

- ・ 俯瞰解析アルゴリズムを活用したコンサルティング事業
- ・ 当該アルゴリズムを根幹とするASP事業



※ ASP = Application Service Providerの略。インターネット等のネットワークを通じてアプリケーションソフトウェアを提供するサービス

お取引先様例

365

企業・団体

2025年7月31日現在



26

業種

2025年7月31日現在



KOBELCO CONSTRUCTION MACHINERY CO., LTD.

※順不同

解くべき課題と解決手法

VALUENEXは企業の経営層や企画・新規事業・研究開発・知財部門が抱える各課題に応じて、ASPサービスとコンサルティングサービスを組み合わせで解決します。

誰の・どんな課題を解決するのか



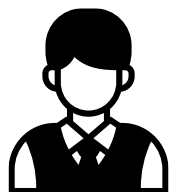
経営層・企画部門

- ・M&A等の意思決定に必要な情報が不足している
- ・戦略の策定が難しい
- ・自社の取り組みを分かりやすく発信したい



新規事業部門

- ・将来有望な市場が見えない
- ・技術シーズと市場を結べない



研究開発・知財部門

- ・研究テーマの方向性が見えない
- ・知財を経営戦略に活かしていない

解決手法（ASP×コンサルティング）

俯瞰経営支援

（M&A支援、新規事業創出）

ASP + アイデア創発

プロ解析支援

（R&Dテーマ探索、技術動向調査）

ASP + 解析代行

自立解析

（技術動向調査、用途探索）

ASP + カスタマーサポート

単価

高

低

主要サービスの概要

お客様自身が利用するASPサービスに加えて、コンサルティングサービスを通じて、お客様のイノベーション活動を支援します。

ASP

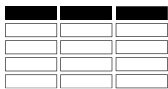
サービス名

Radar



技術・ニュース情報等を俯瞰し、未来の研究テーマ・競合構造を可視化。
「何を研究すべきか」を発見

QFD



製品・技術の優先順位を定量評価。
ノウハウ伝承問題を解決、業務を均質化できる。
「開発設計工数の短縮」を実現

Fusion



社内外データを統合・比較して、投資分野や注力テーマを見える化。
「どこに投資・注力すべきか」を判断

NEW

RTI



あらゆるテクノロジーの動向と企業の強みを生成AIを使って大量分析&大量レポート化。
「技術情報ポータルサイト」の提供

コンサルティング

サービス名

HOT

**俯瞰経営
支援**

M&A候補企業の選定や事業ポートフォリオの再編等をサポート。
「経営の意思決定」をデータドリブンで支援

HOT

G.I.P



Global Internship Projectの略。
スタンフォード大学の優秀なデータサイエンティストを活用した俯瞰経営支援。
「AI×人」で分析～プロダクト開発まで一気通貫支援

**新規事業
探索**

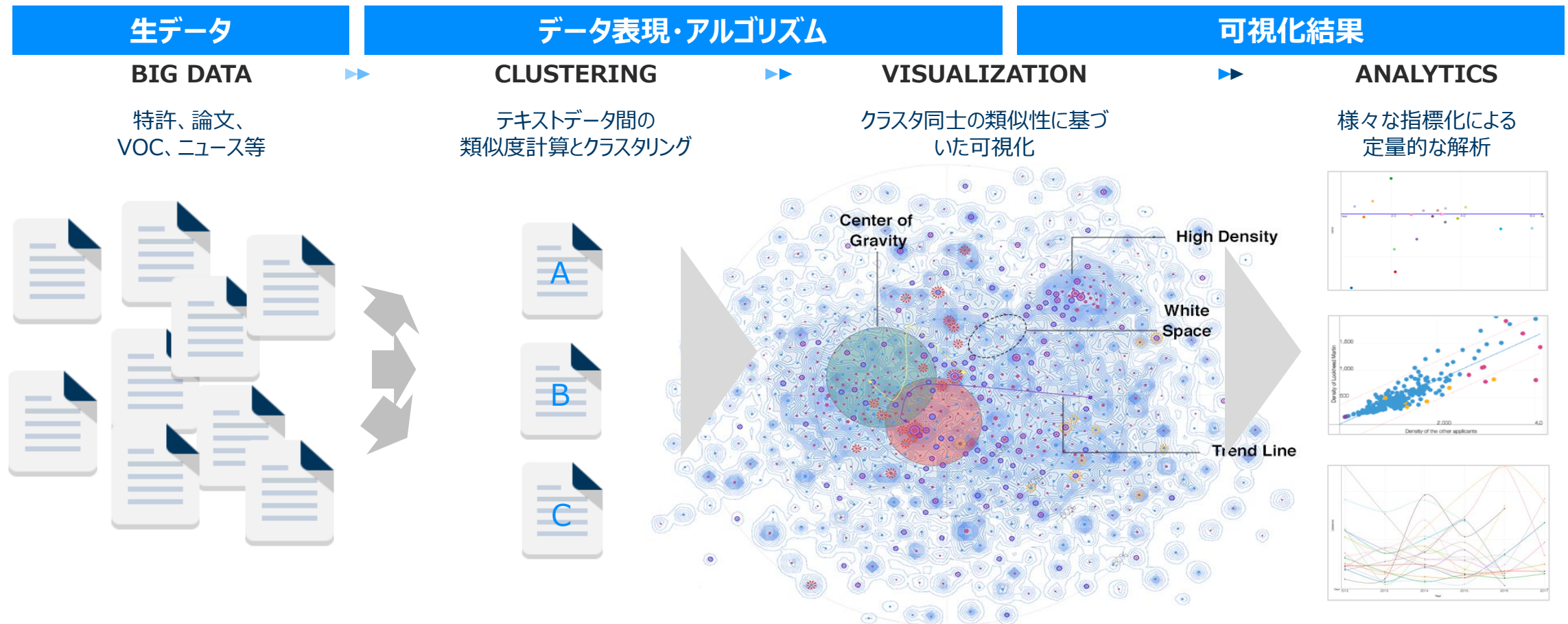
スタートアップ情報・ニュース・論文・知財情報を使い、クライアントの新規事業候補を提案。
「自社技術をどう応用すれば良いか」を提案

**技術動向
調査**

官公庁や企業の研究開発部門向け。専門家がデータ解析結果と知見を組み合わせるインサイトを発見。
「技術動向から読み取れる示唆」を提供

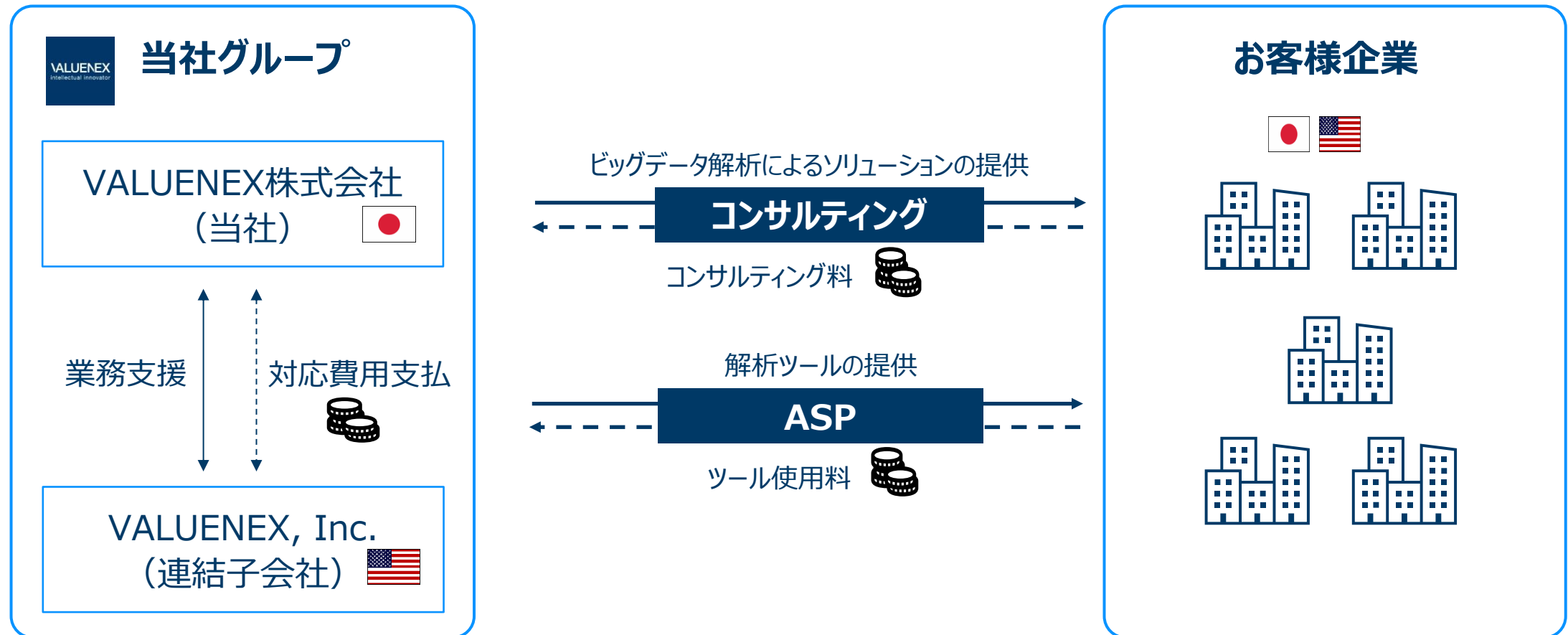
VALUENEXツールの概要

大量のテキストデータ同士の類似性を可視化した俯瞰図により、テキストデータの全体像を把握する手法です。これにより、知的財産、研究開発、マーケティング等に資する知見の獲得が可能です。



事業モデル

当社独自の解析ツール(ASP)の提供、知的財産等幅広い分野の俯瞰解析から予測分析・戦略活用まで、コンサルティングサービスやレポート販売サービスを提供しております。

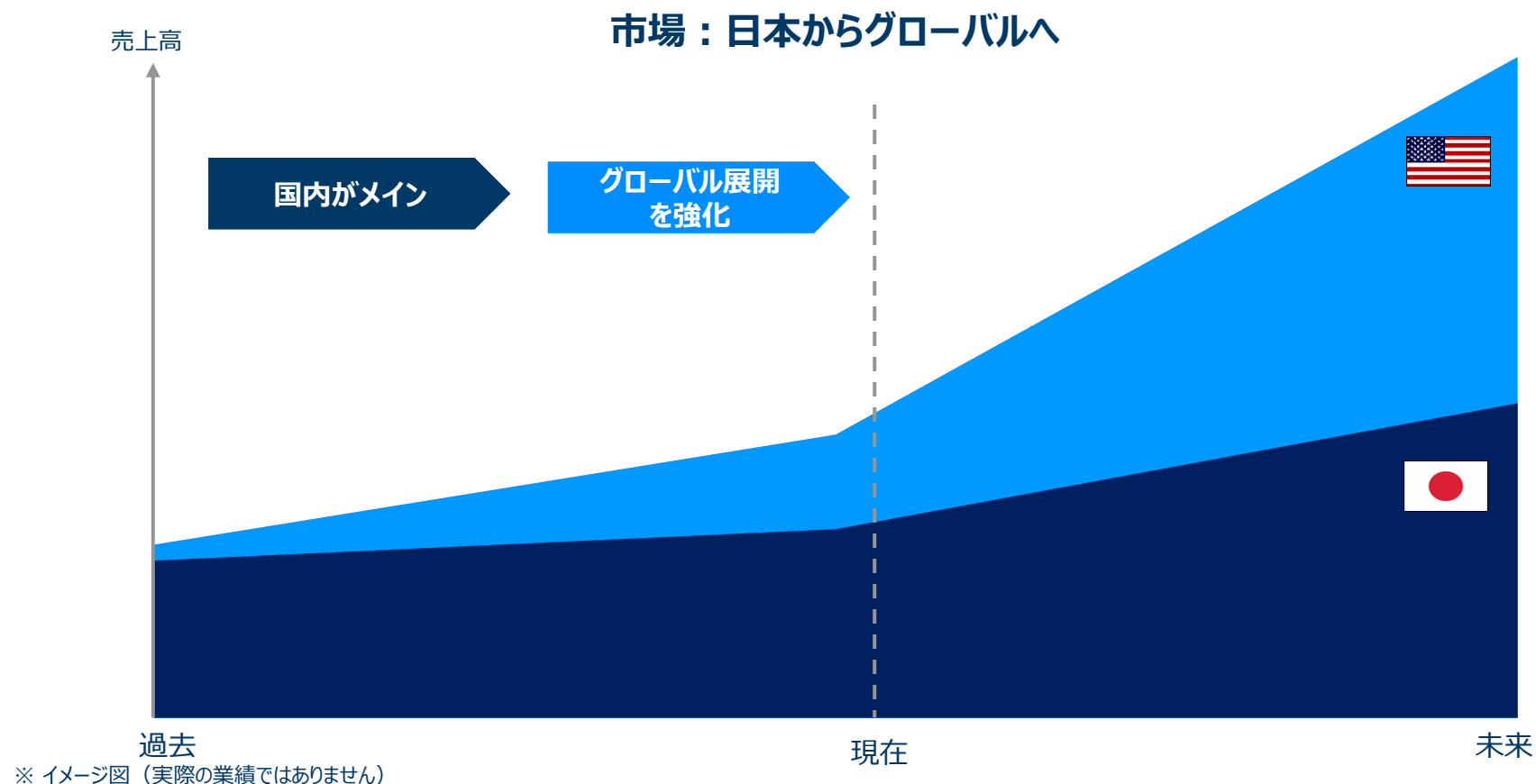


注：図中の実線矢印はサービス提供を意味し、破線矢印はお金の流れを意味します。

今後の事業成長イメージ①：ターゲティング

25年7月期は、北米大手顧客の内3社の社内体制変更とトランプ関税の影響、一部案件の成約が遅延していることにより、計画していた米国の売上が減少しました。一方で新規案件は順調に推移しました。

引続き、当社サービスを日米で積極的に展開し、グループ全体の成長を図ります。また、お客様内で発展的に提案解析を進め多くの部署に展開して頂くことで、お客様と共に生涯価値を最大化しロイヤルカスタマーを創出してまいります。



今後の事業成長イメージ②：ASPの進化と応用による成長サイクル

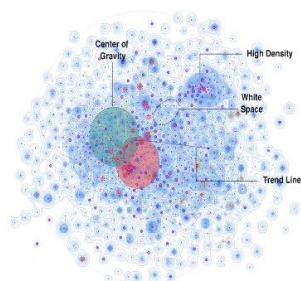
ASPの主力商品であるVALUENEX Radarの進化を核に、Fusion・QFD・Radar Tech Intelligence (RTI) など応用サービスを展開。AI技術で顧客課題の発見から価値創出までを循環的に拡大していきます。25年7月期はRadar QFDの提供を開始しました。引き続き製品・サービスの一層の向上に努め、事業成長に繋げてまいります。



Radarの発展進化
AIエージェント機能の搭載
異業種/職種への対応

Radar QFD 品質表 (参考用)		
品質項目	品質目標値	品質達成率
設計工数の短縮化	75	25
開発部門ニーズに対応	10	13

Radar QFDの提供開始
AIで設計工数の短縮化
開発部門ニーズに対応



Radarの継続的進化
AI自動化・高速化・UI改善
知財部門への浸透

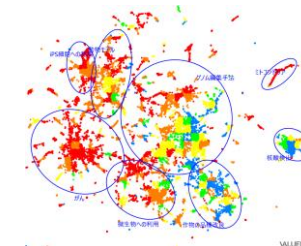
ASPサービス群のグローバル化
グローバルへの対応



Radar Tech Intelligenceの提供開始
未来を読むAIによる技術レポート
企業規模問わず展開可能



Fusionβ版の開始
異なるデータ同士の融合解析
研究開発部門ニーズに対応

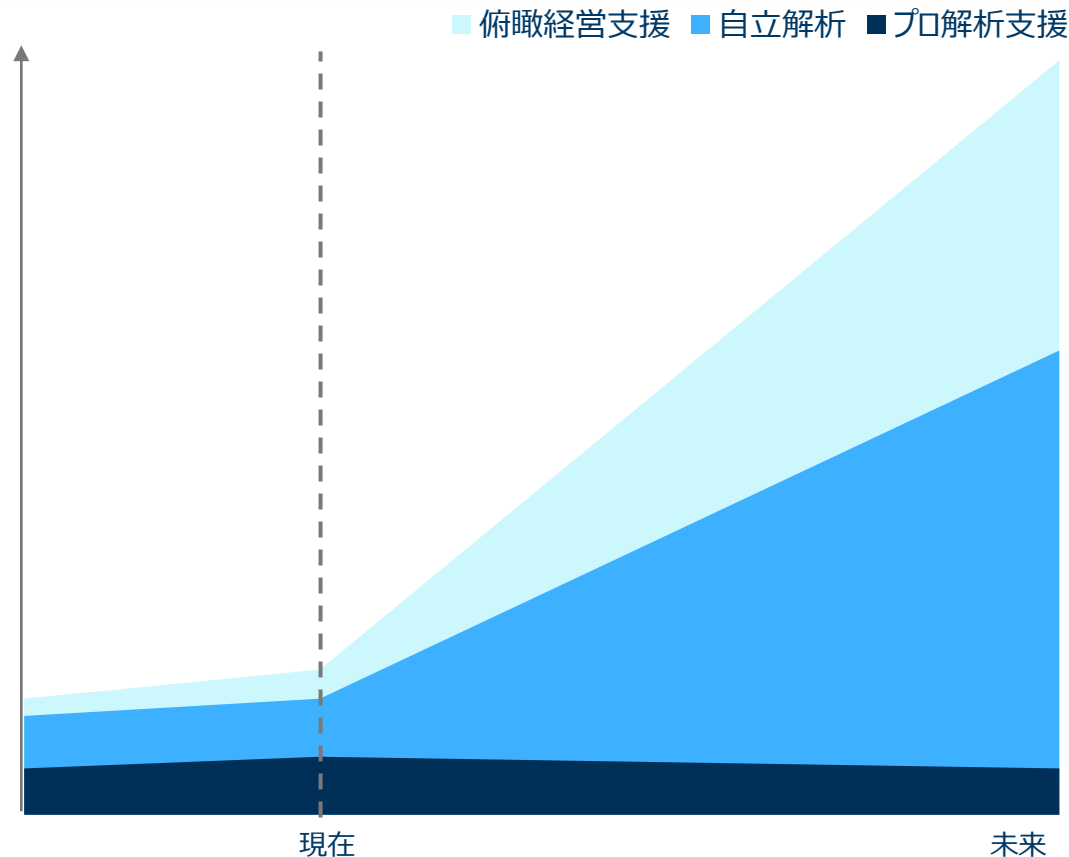


俯瞰
アルゴリズム

今後の事業成長イメージ③：ASP×人的支援による多層展開

ASPを共通基盤に、人的支援の厚みで層別提供：経営層・新規事業部門には俯瞰経営支援で高単価・質重視、R&D／知財にはASPをメインとした自立解析サービスの拡販を目指し、収益性とスケールを両立します。25年7月期は俯瞰経営支援と自立解析サービス拡販のためのサービス開発を実施しました。26年7月期以降の収益拡大に努めてまいります。

売上高成長イメージ



営業戦略

概要

注力指標

1

経営層向けの俯瞰経営支援サービスは、拡販に加え契約形態をスポット→継続契約への切替で安定売上へ



単価

2

自立解析は、プロ解析ナレッジをAI機能に反映し、ASPサービスとして拡販



利用社数

3

プロ解析は官公庁及び一部の知財・研究部門向けに絞り、専門家による質の高い成果を提供

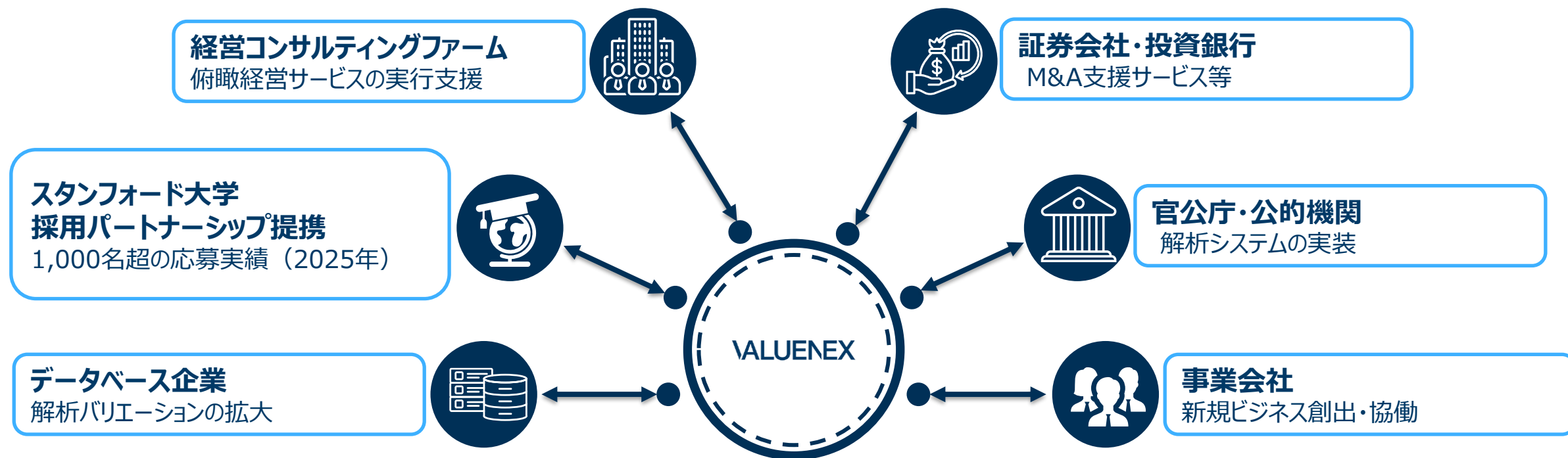


質

※イメージ図（実際の業績ではありません。）

今後の事業成長イメージ④：グローバルなパートナーシップ

25年7月期はスタンフォード大学との採用パートナーシップ提携により1,000名超のインターン応募実績がありました。また証券会社と連携し、大手企業の経営層へのアプローチを行いました。今後は、既存提携先との深化に加え、コンサル／証券・投資銀行／官公庁・公的機関／事業会社との協業を重点化し、俯瞰経営支援・共同販売・M&A支援・システム実装・新規事業共創を推進します。



Appendix

社名	VALUENEX株式会社		
事業内容	アルゴリズム事業	設立	2006年 8 月 1 日
所在地	東京都文京区小日向 四丁目5番16号		
資本金	82百万円（2025月10月31日現在）		
連結子会社	VALUENEX, Inc.（100%子会社） ※在米国		
従業員数	連結35名、単体30名（2025年10月31日時点） ※役員除く		
役員	中村 達生	：代表取締役社長 CEO / 博士（工学）	
	鮫島 正明	：専務取締役 CFO / MBA	
	瀧口 匡	：取締役 経営企画担当 / 博士(国際経営)	
	Choi Jiyoung	：取締役 海外事業担当	
	鈴木 理晶	：社外取締役 / 弁護士	
	松田 均	：社外常勤監査役 / 公認内部監査人	
	宮内 宏	：社外監査役 / 弁護士	
	金子 良太	：社外監査役 / 公認会計士・米国公認会計士（ワシントン州）	

MISSION .

VALUENEXは、世界に氾濫する情報から「知」を創造していく企業です。

全ての人が情報を最大限に活用する未来へ。

現代社会は情報過多の時代です。しかし、その大量の情報を適切に処理・解析できる能力が個々人に求められる一方で、情報の偏りがないことを確認することも同時に重要となっています。しかし、現状ではこれらの能力に格差が生じ、情報の活用が限定的となっています。

VALUENEXは、世界中の誰もが大量かつ必要十分な情報を独自に解析し、得られた知見を起点として新しいアイデアやコンセプトを生み出すことができる世界を実現することで前述の課題を解消し、知の創造を促進します。

誰でも知を創造できる世界の実現に向けて、私たちは情報と知識の世界において持続可能な変革と発展のために努力し続け、「知」を求める全ての人に価値を提供します。

VISION .

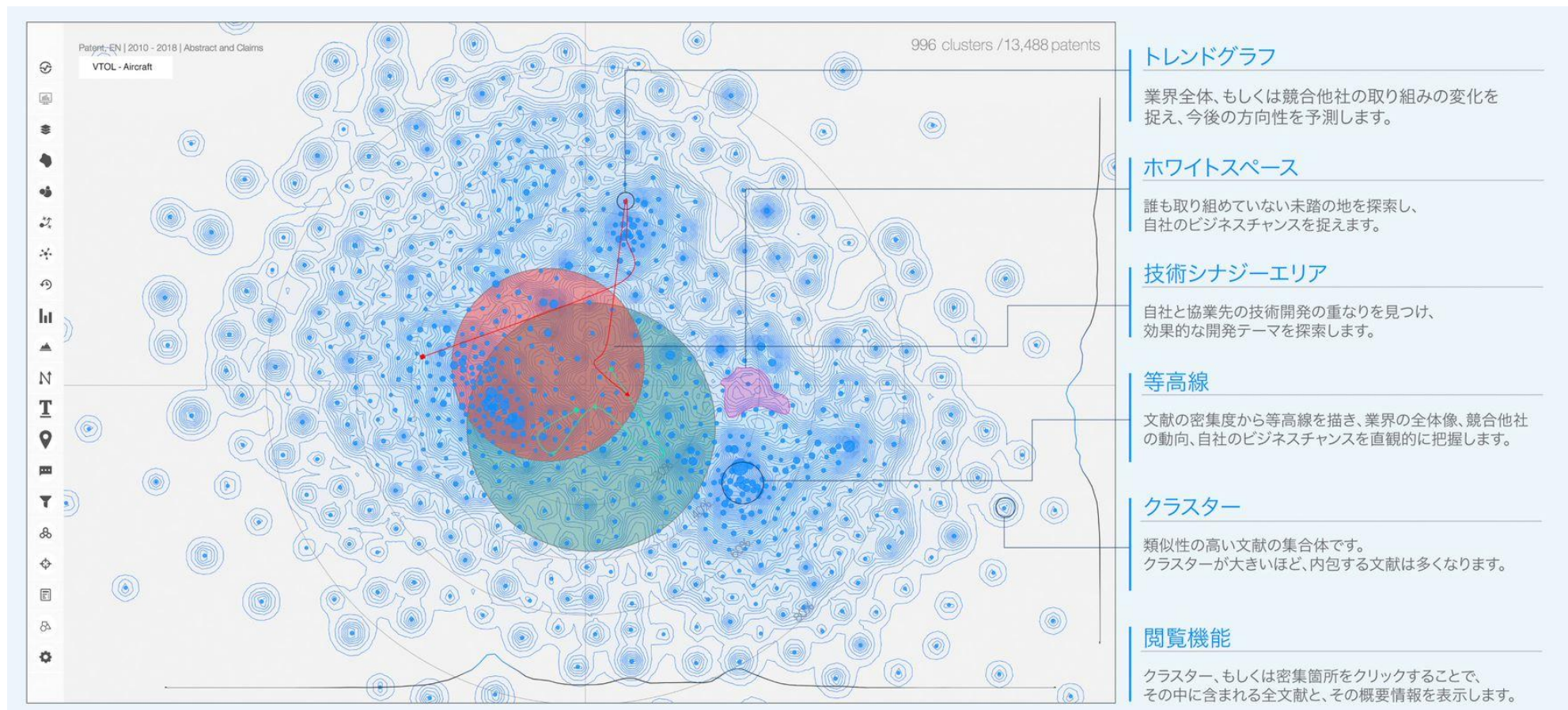
**俯瞰技術を極め、顧客のイノベーションをサポートする
世界のフロントランナーとなる。**

※イノベーションとは、経済的価値・社会的価値を生み出す新しいモノ・コトをいう

当社ASPの検索・可視化イメージ

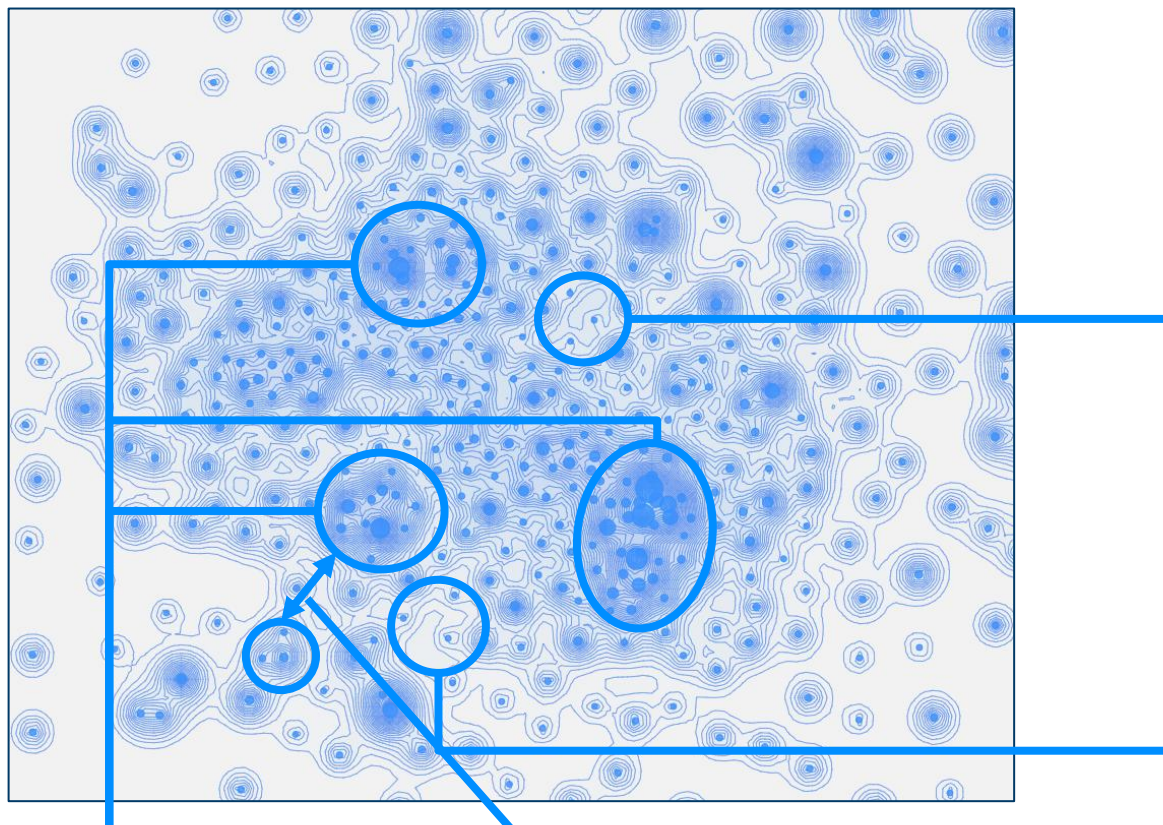
検索された文章に近い情報を短時間で収集・可視化し、欲しい情報と周辺情報が把握できます。

当社ASPのイメージ図（俯瞰図）



俯瞰図の基本的な見方

テキストデータ同士の内容の関連性に基づく配置により、大量のテキストデータの全体像を把握しやすくします。



● 各プロットは似ている文書をひとまとめたクラスタ

● クラスタの大きさは、その中に含まれる文書の数に比例

● クラスタ間の距離はクラスタ間の類似度を表現（似ているほど近い）

● XY軸は予め定義されていない。
クラスタ同士の類似性を最適に表現できるように配置を決定

クラスタが密集

= データセット中に多く含まれている技術や市場ニーズなどの情報

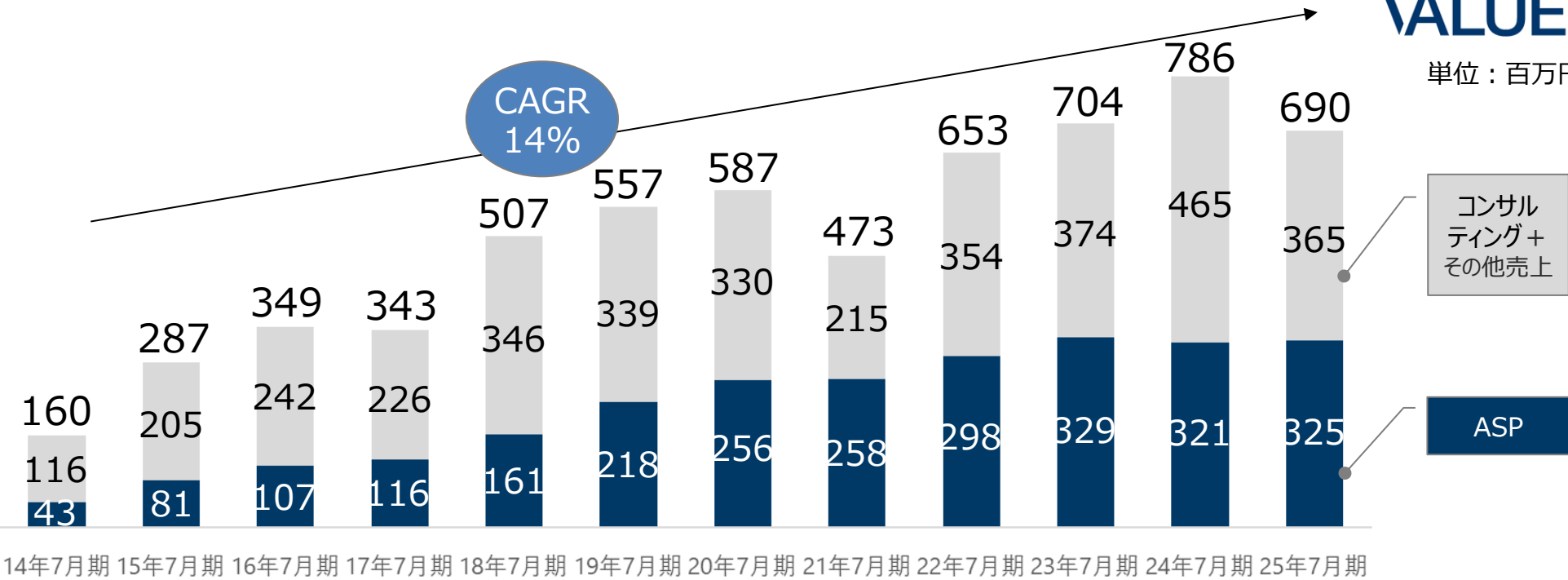
クラスタ間の距離が近い ホワイトスペース

= 内容の関連性が高い

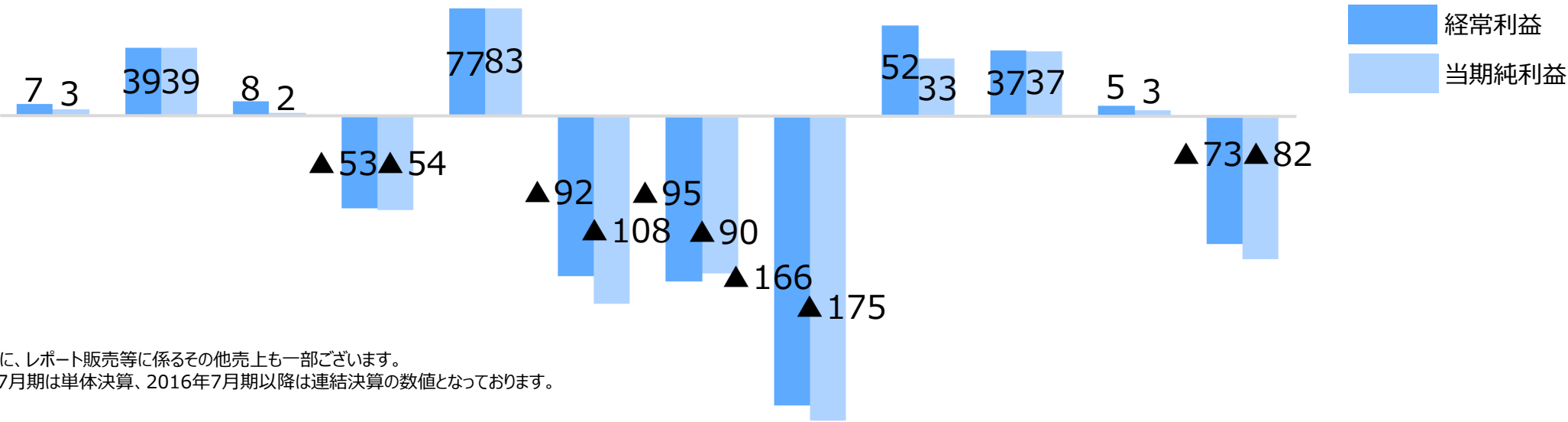
業績推移

単位：百万円

売上高注



経常利益
当期純利益



注：ASPとコンサルティング以外に、レポート販売等に係るその他売上も一部ございます。
2014年7月期、2015年7月期は単体決算、2016年7月期以降は連結決算の数値となっております。

将来見通しに関する注意事項

本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」（forward-looking statements）を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。

それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。

今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。



www.valuenex.com
customer@valuenex.com